

資格課程の思い出：獅伏十五年

菅原，真悟

(出版者 / Publisher)

法政大学資格課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学資格課程年報

(巻 / Volume)

12

(開始ページ / Start Page)

111

(終了ページ / End Page)

115

(発行年 / Year)

2023-03-31

獅伏十五年

菅原真悟（法政大学兼任講師）

1. 資格課程での勤務概要

筆者は2002年4月から2010年3月までの8年間、法政大学資格課程事務助手として勤務していた。当年報では、その8年間で振り返りながら、当時アウトプットした内容を整理したいと思う。

なお、歴代助手については、山本洋氏（現秩父宮記念スポーツ博物館・図書館学芸員）が資格課程年報第7号に「資格課程の思い出 法政大学資格助手小史」^{註1}として詳しくまとめているので、そちらを参照いただきたい。

2002年3月に博物館学芸員課程の段木一行教授が定年退職され、金山喜昭助教授（当時）が4月に着任された。また、筆者の前任の増山一成氏も2002年3月に退職され、新たに石坂綾乃氏と筆者が入職した。2002年は、キャリアデザイン学部設立に向けて準備が行われていた時期であり、筆者が知る二十数年間で最も資格課程が忙しい時期であったといえるだろう。社会教育主事課程の笹川孝一教授（当時）はキャリアデザイン学部設置準備委員長として、新学部の設立に尽力されていた。また、図書館司書課程の坂本旬助教授（当時）は1年間ニューヨークでの在外研究のため不在であった。

法政大学では、2000年の春からボアソナード・タワーの使用がはじまり、ボアソナード・タワー14階に資格課程関連施設（博物館展示室・収蔵庫、資格課程実習準備室、資格課程共同実習室（精密）、資格課程共同実習室（工作））が開設された。その際、ウェブサーバ、ノートPCやビデオカメラなどの様々な情報機器も整備されたが、管理できる人がいないという問題があり、その管理を担当することが入職時の主な仕事であった。もっとも仕事はそれらに限らず、3課程（図書館司書・社会教育主事・博物館学芸員）の学生がPCや情報機器を使うサポートから、3課程の予算管理、会議資料の作成、履修に関する相談対応、など多岐に及んだ。

入職時は2部の時間帯勤務（火曜日～金曜日の15時～20時と土曜日10時～18時）の臨時職員であったが、2004年3月に石坂氏の退職に伴い1部の時間帯勤務（月曜日～金曜日の9時～17時）の嘱託職員となった。兼ねてより、ITに関する研究をしたいと願っていた筆者は、2005年に金沢工業大学工学研究科知的創造システム専攻ITプロフェッショナルコース^{註2}（修士課程）へ入学、翌2006年3月に修了（修士（工学））、2007年には総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻（博士課程）へ入学し研究に携わるようになっていく。

なお、当時の嘱託契約の契約上限は3年であったが、上限に達した嘱託職員の一部を派遣職員として3年間継続勤務できるようにするスキームが存在した。2007年4月から2010年3月までは、そのスキームを使って派遣職員^{註3}として、勤務内容はそれまでと変わらずに勤務した。3年間の派遣契約のあとは嘱託契約に戻れると認識していたのだが、諸般の事情でそうはいかず、

職を離れることになった。

2. 図書館司書課程の授業支援システム「HULiC」の運用

話を2006年にもどそう。修士課程を修了した翌2006年度に、図書館司書課程は授業支援システム「HULiC」^{註4}を稼働させることになり、筆者はそのシステム設計および運用を担当した。HULiCは、国立情報学研究所が開発したNetCommons^{註5}というオープンソースのCMS（Contents Management System）を用いて構築した。当時は、まだ全学的な授業支援システムがなかった時期でもあり、先駆的な取り組みであったといえるだろう。なお、導入の経緯や実践事例の紹介などについては、日本教育工学会の全国大会^{註6註7註8}や研究会^{註9}において発表し、キャリアデザイン学部紀要^{註10}や教職資格課程年報^{註11}でも報告した。

HULiCの開設と同時期に、資格課程のホームページ^{註12}もNetCommonsを使ったサイトへとリニューアルし、どちらのサイトもバージョンアップを行いながら現在に至っている。それぞれのトップページに設置したアクセスカウンターは、HULiCが2009年3月以降160万アクセス、資格課程ホームページも2009年3月以降100万アクセスとなっており、授業支援および課程の広報に一定の成果をあげているといえるだろう。

3. 文化探究学習（カルチャークエスト）への参加

修士課程を修了した2006年ごろから、仕事の合間に（本来の業務外なので有給を使って）坂本教授の科研費研究に研究協力者として携わり、墨田区立押上小学校や江戸川区立鹿骨東小学校でスカイプを活用した国際交流授業などのサポートを行った。また、文化探究学習については、日本教育学会^{註13}、日本教育工学会^{註14}、教育システム情報学会^{註15}で発表した。

2006年、2007年、2008年と、3年連続でキャリアデザイン学部坂本ゼミのニューヨーク研修にも参加。2009年は、文化探究学習の交流先をベトナム・カンボジアに移すことになり、カンボジアに現地視察に出張したり、坂本ゼミのベトナム研修に参加したりもした。

4. 兼任講師として

2013年3月に博士課程を修了（博士（情報学））した後についても、少し触れておきたい。2013年度以降は、兼任講師として「図書館情報学概論Ⅱ」「情報サービス演習」「情報資源組織演習」「情報メディアの活用」の授業を担当してきた。2022年度は、本務との兼ね合いもあり、月6（通年）「情報サービス演習」と土3（秋）「図書館情報学概論Ⅱ」のみを担当している。

なお、「図書館情報学概論Ⅱ」では、図書館に関する情報技術について、受講生の関心を高めるための演習を取り入れている。例えば、オープンソースの図書館業務システム「Next-L Enju Leaf^{註16}」を用いて、資料の登録や貸出・返却業務を行う演習（図1）は、その一例である。また、「情報サービス演習」では、発信型情報サービスについての理解を深めるために、ソーシャルメディアを使った演習、NetCommonsを使った図書館ウェブサイトの構築（図2）、NetCommonsの「汎用データベース」モジュールを使ったレファレンス事例データベースの作成（図3）などの演習を行っている。「図書館情報学概論Ⅱ」については資格課程年報の第3号^{註17}で、「情報サービス演習」については資格課程年報の第4号^{註18}で詳しく報告しているので、そちらを参照いただきたい。

5. おわりに

振り返ってみると、資格課程の業務で CMS を扱うことになったのを契機に、博士課程で CMS を使った教育に関する研究を進めることができ、それが現在の仕事（研究）にもつながっていくことになる。ここでの 8 年間は「雌伏」の時であったといえるだろう。

他方、本学に限らないことだが、大学の教育も事務もその大部分を非正規職員に頼る構造になっており、そのため、人の入れ替わりが激しいことや、授業時間割が安定しないといったことが起きている。教育の質や研究力の向上が叫ばれる中、継続して勤務できる環境整備が必要になってくると思われる。

図 1 Enju-Leaf 画面^{註19}

図 2 学生が作成したサイトの一例^{註20}

図3 「汎用データベース」モジュールで作ったレファレンス事例データベース^{註21}

(追記)

最後に、本稿のタイトルについて補足しておきたい。2011年に公開された映画『はやぶさ / HAYABUSA』^{註22}の後半で、カメラチームリーダーの坂上健一研究員（作中では臨時職員）が、任期が切れて職場を去るときに、主人公の水沢恵に仕事への向き合い方について贈った言葉が「雌伏」。水沢は「雌伏」という言葉を知らず、辞書で調べて「逆境に身を任せながら、いずれ訪れるであろうチャンスを待つてじっと耐えること」という意味と知って泣き崩れるシーンがある。筆者は映画公開当時、自身の状況と坂上研究員を重ねて見たのを鮮明に覚えている。実は「雌伏」を「獅伏」と誤認していたことに最近気づいたのだが、当時を振り返りつつ、2002年の入職から現在の職に就くまでを「獅伏十五年」と捉え、本稿ではその前半8年間を中心にまとめた。

註1 山本洋 (2017) 資格課程の思い出: 法政大学資格助手小史. 法政大学資格課程年報 7: 109-112

註2 金沢工業大学は、虎ノ門に1年制社会人向け大学院を2004年に開設していた。筆者は2期生として入学。知的創造システム専攻は、現在、イノベーションマネジメント研究科に改組されている。

註3 株式会社エイチ・ユー（法政大学100%出資企業）が共同出資していたC f o r U株式会社の派遣社員とし

て勤務。2007年10月以降、派遣事業が株式会社 ウィズ・ケイへ移管されたことによって所属が変更になった。

- 註4 <https://lc.i.hosei.ac.jp/>
- 註5 <https://www.netcommons.org/>
- 註6 菅原真悟, 坂本旬, 新井紀子 (2006) 司書課程における情報共有システム導入の評価と課題. 日本教育工学会第22回全国大会講演論文集, 251-252
- 註7 菅原真悟, 坂本旬 (2007) 図書館司書課程における探究学習の実践. 日本教育工学会第23回全国大会講演論文集 919-920
- 註8 菅原真悟, 新井紀子, 坂本旬 (2008) グループ学習における掲示板利用に関する分析. 日本教育工学会第24回全国大会論文集. 797-798
- 註9 菅原真悟, 新井紀子, 坂本旬 (2008) 教育情報システムの質的評価に関する考察: 学生グループのシステム利用調査の過程から. 日本教育工学会研究報告集 08(2): 15-18
- 註10 坂本旬, 菅原真悟 (2007) 授業における情報共有システム活用: キャリアデザイン学部授業における取り組み. 法政大学キャリアデザイン学部紀要 4: 113-131
- 註11 菅原真悟, 新井紀子, 坂本旬 (2008) グループ学習を支援する情報共有システムに関する考察: 法政大学図書館司書過程 e-learning システム「HULiC」の利用調査から. 法政大学教職資格課程年報 5: 56-73
- 註12 <https://shikaku.i.hosei.ac.jp/>
- 註13 村上郷子, 菅原真悟, 坂本旬, 高木勝正 (2007) 「カルチャー・クエスト」の理論と実践. 日本教育学会大会研究発表要項 66: 246-247
- 註14 菅原真悟, 重松栄子, 中村優太, 佐々木順子, 村上郷子, 坂本旬 (2010) 小学校におけるテレビ会議を用いた国際交流学习の分析. 日本教育工学会第26回全国大会講演論文集 213-214
- 註15 菅原真悟, 坂本旬, 村上郷子 (2007) 文化探究学習における ICT の活用. 教育システム情報学会全国大会講演論文集 32: 378-379
- 註16 <https://www.next-l.jp/?page=Next-L+Enju>
- 註17 菅原真悟 (2014) 図書館情報技術への関心を高める授業実践: 「図書館情報技術論」に体験的な演習を組み入れる. 法政大学資格課程年報, 3: 9-19
- 註18 菅原真悟 (2015) SNS や CMS を用いた発信型情報サービスに関する演習. 法政大学資格課程年報. 4: 29-40
- 註19 菅原真悟 (2014) より引用
- 註20 菅原真悟 (2015) より引用
- 註21 菅原真悟 (2015) より引用
- 註22 白崎博史, 井上潔, 百瀬しのぶ (2011) はやぶさ / HAYABUSA. KADOKAWA, 東京